

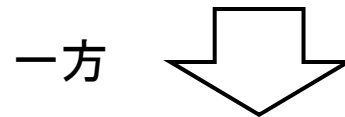
○堤防必要延長のうち、計画断面を確保できている延長の割合は以下のとおりです。(H28.3末時点)

大井川 約95%

安倍川 約71%

○また当面30年間程度の事業メニューを明記した安倍川及び大井川水系河川整備計画(大井川:流量確率1/50、安倍川:流量確率1/50)に基づき整備を実施しているところです。

さらには、平成27年9月関東・東北豪雨を踏まえて、氾濫した場合にも被害を軽減する、堤防天端の舗装や堤防のり尻部補強等の「危機管理型ハード対策」を概ね5年間で実施することとしています。

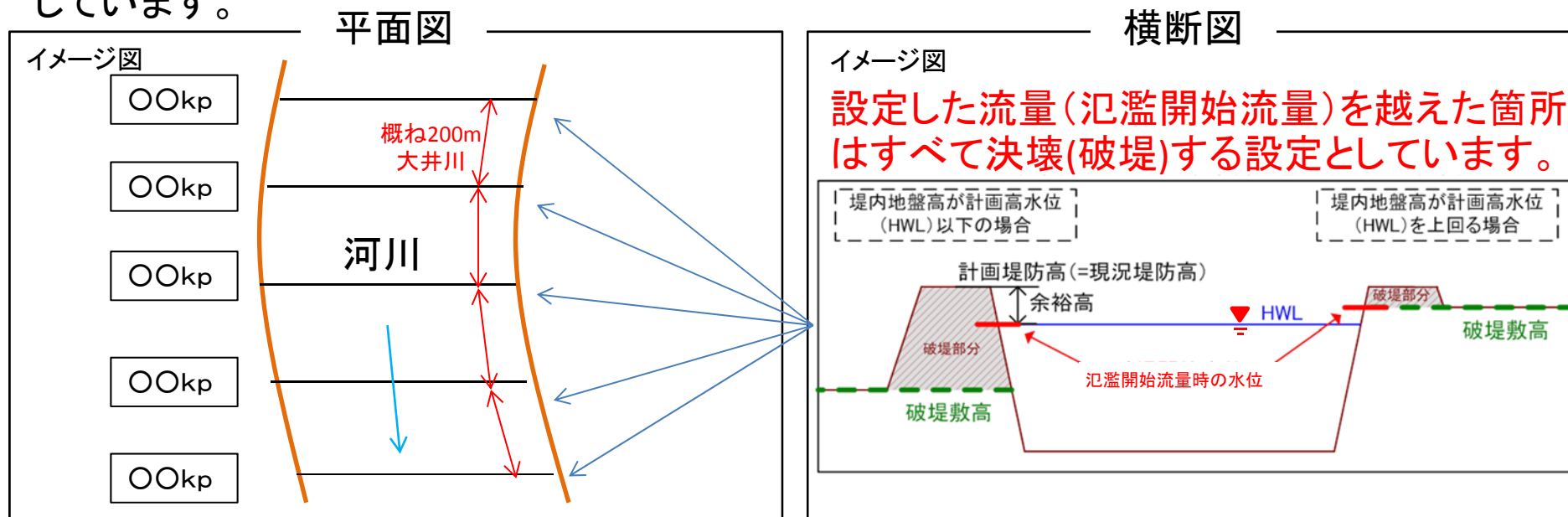


○一方で、**水防法が改正(H27.6施行)**され、想定し得る最大規模降雨が発生した場合の避難体制を整えることにより、洪水による被害の軽減を図ることを目的に洪水浸水想定区域図等を作成する事になりました。

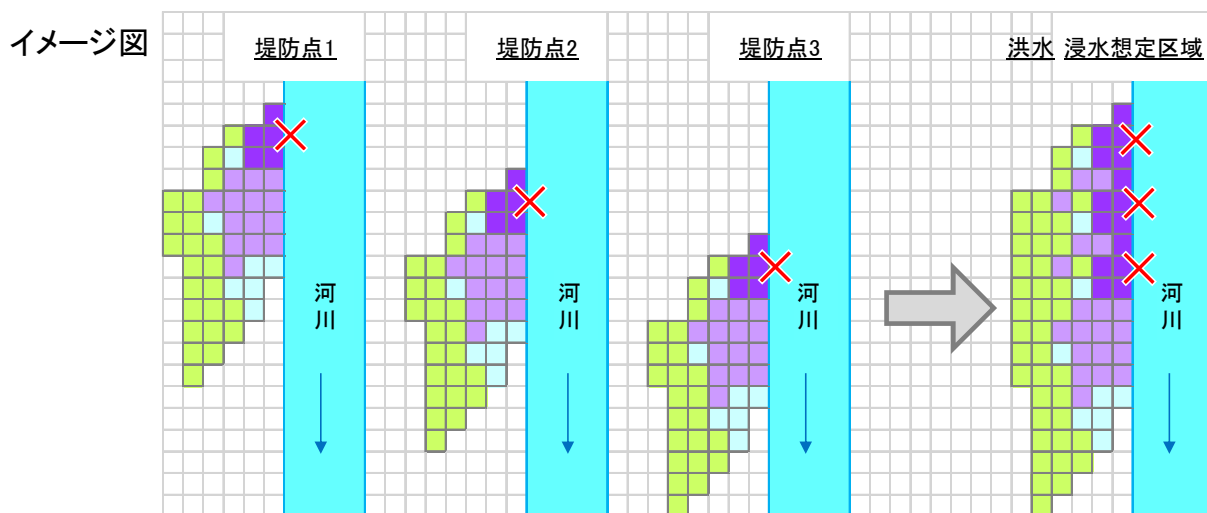
発生確率は極めて低いですが、近年の降雨状況を鑑み、想定し得る最大規模の降雨を設定し、洪水浸水想定区域図等を作成しました。

【参考情報】 洪水浸水想定区域図 作成方法

○現況河道に対して、概ね200m毎[大井川]、250m毎[安倍川]に決壊(破堤)の判定を実施しています。



○決壊(破堤)と判断されたすべての地点を1地点ずつ決壊(破堤)させ、浸水深、浸水域を包絡した図を 洪水浸水想定区域図としています。



決壊(破堤)と判断されたすべての地点1地点ずつ決壊(破堤)させ、それぞれの浸水深、浸水域を包絡した図となります。

【参考情報】想定し得る最大規模の降雨と観測史上最大降雨の関係

○観測史上最大の降雨と想定し得る最大規模の降雨(以下、想定最大規模降雨)の関係は以下の表のとおりです。

想定最大規模降雨は、観測史上最大より、約1.5倍程度の降雨であります。

発生確率としては極めて低いと考えられますが、近年の大雨や短時間強雨の発生頻度の増加等、計画規模を上回る洪水により大規模氾濫が発生しています。

したがって、今回設定した「想定最大規模降雨」は、現状の科学的な知見や研究成果を踏まえ利用可能な水文観測等の結果を用い、現時点において、考え得る設定をしています。

■観測史上最大と想定最大規模の降雨の関係

	観測史上最大	想定最大規模	比率
大井川	509mm/2日 (昭和57年)	787mm/2日	1.5
安倍川	331mm/12hr (昭和57年)	511mm/12hr	1.5

■参考(基本方針・整備計画)

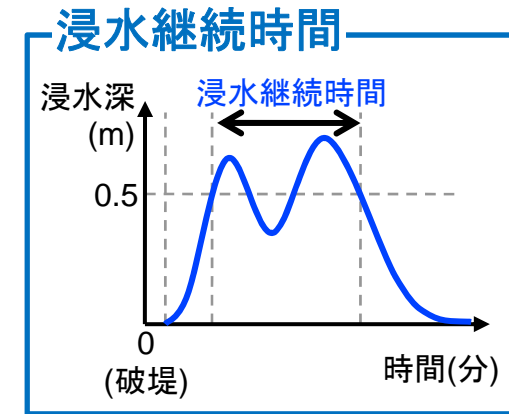
	基本方針	整備計画	備考
大井川	551mm/2日	470mm/2日	
安倍川	383mm/12hr	268mm/12hr	

※降雨は、基準点上流域の流域平均雨量です。

【参考情報】浸水継続時間

○浸水継続時間とは

浸水深が50cmに達してからその浸水深を下回るまでにかかる時間と定義しています。



○浸水継続時間の必要性

長時間にわたり浸水するおそれのある範囲で、洪水時における

水平避難が必要な区域・垂直避難が可能な区域の判断等に有効な情報となります。

階級	配色
12時間未満	
12時間 ~ 24時間 (1日間)	
24時間 ~ 72時間 (3日間)	
72時間 ~ 168時間 (1週間)	
168時間 ~ 336時間 (2週間)	
336時間 ~ 672時間 (4週間)	
672時間 ~	